現代文化学サブプログラム

専門基礎科目(現代文化学)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
0AA3008	現代文化学基礎I	1	1.0	1	春AB	月2	人社A202	畔上 泰治,濱田 真,廣瀬 浩司,対馬 美千子,山口 恵里子,江藤 光紀	この授業は現代文化研究に不可避の「トピック」を設定し、旧来の方法論を総合人間学の視点から批判的に問い直し、新たな研究領域と価値を切り開く能力を養成することを目的としている。授業は現代文化学サブプログラム担当教員によるオムニバス形式(全10回)で実施する。諸条件が複雑に絡み合う現代文化を深く研究するために不可欠となっている協働研究の状況にも触れる。受講者には全授業の最後にレポートの提出が求められる。	オンライン(オンデマンド型)
0AA3009	現代文化学基礎II	1	1.0	1	秋AB	月2	人社A202	竹谷 悦子,吉野 修,中田 元子,宮崎 和夫,馬籠 清子,清水 知子,佐藤 吉幸	この授業は現代文化研究に不可避の「トピック」を設定し、具体例を多様な角度から分析し、そこに生じる問題の創造的解決の能力と新たな知・価値を創造する力を養成することを目的としている。授業は現代文化学サブプログラム担当教員によるオムニバス形式(全10回)で実施する。諸条件が複雑に絡み合う現代文化を深く研究するために不可欠となっている協働研究の状況にも触れる。受講者には全授業の最後にレポートの提出が求められる。	その他の実施形態

専門科目(現代文化学)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
0ABAJA1	ヨーロッパ文化学IA	2	1.0	1・2					この授業はイギリス、ドイツ、スペインを中心としたヨーロッパの社会と文化を対象に、そこに見られる諸問題を扱う。とりわけ、政治や経済等の大きな変動に伴う社会と文化の変容をテーマにする。英語かドイツ語またはスペイン語で書かれた文献を用いて、受講者が発表を行い、それに基づいて議論を行う。専門文献の読解力の向上、ヨーロッパの人々が直面した社会的・文化的な摩擦や対立に関する知識の深化、自らの研究に関する発表・議論スキルの向上を目指す。	科目等履修生の履修については、事前に担当教員と相談すること。西暦偶数年度開講。01DE537, 01DE545, 01DE565と同一。
0ABAJA3	ヨーロッパ文化学IB	2	1.0	1・2					この授業はイギリス、ドイツ、スペインを中心としたヨーロッパの社会と文化を対象に、そこに見られる諸問題を扱う。とりわけ民族や異文化との摩擦・対立などをテーマにする。英語かドイツ語またはスペイン語で書かれた文献を用いて、受講者が発表を行い、それに基づいて議論を行い、専門文献の読解力の向上、ヨーロッパの人々が直面した社会的・文化的な摩擦や対立に関する知識の深化、自らの研究に関する発表・議論スキルの向上を目指す。	科目等履修生の履修については、事前に担当教員と相談すること。西暦偶数年度開講。01DE538, 01DE546, 01DE566と同一。その他の実施形態
0ABAJA5	ヨーロッパ文化学IIA	2	1.0	1・2	春AB	火2		畔上 泰治,中田 元子,宮崎 和夫	この授業はイギリス、ドイツ、スペインを中心としたヨーロッパの社会と文化を対象に、そこに見られる諸問題を扱う。とりわけ社会的・文化的マイノリティに関する諸問題を考察する。専門文献の読解力の向上、ヨーロッパの人々が直面した社会的・文化的な差異や対立に関する知識の深化、自らの研究に関する発表・議論スキルの向上を目指す。	科目等履修生の履修については、事前に担当教員と相談すること。西暦奇数年度開講。01DE539, 01DE547, 01DE567と同一。その他の実施形態
0ABAJA7	ヨーロッパ文化学IIB	2	1.0	1・2	秋AB	火2		畔上 泰治,中田 元子,宮崎 和夫	この授業はイギリス、ドイツ、スペインを中心としたヨーロッパの社会と文化を対象に、そこに見られる諸問題を扱う。とりわけ年齢や性など、習慣やアイデンティティの違いから生じる諸問題などのテーマを考察する。専門文献の読解力の向上、ヨーロッパの社会的・文化的な差異や対立に関する知識の深化、自らの研究に関する発表・議論スキルの向上を目指す。	科目等履修生の履修については、事前に担当教員と相談すること。西暦奇数年度開講。01DE540, 01DE548, 01DE568と同一。その他の実施形態
0ABAJB1	文化現象学IA	2	1.0	1・2					この授業では主にヨーロッパや日本の展覧会、博覧会、音楽堂などを対象としたテキストを講読しつつ、そうした文化的な制度や施設を通じて、文化や芸術が各国・地域で、あるいは国際間でどのように影響を与えあい、現象し、発展していくのかを考える。受講者ごとに担当箇所を決め、訳読を行いつつ進める。 また受講者は自らの関心のある課題を独自に調査・研究する。月1回程度の割合で各自の関心に沿った文献の紹介・調査研究の報告などの回を設ける。そうした議論を継続的に進めることで、受講者どうしがお互いの関心を把握し、建設的な議論を行う基礎知識を共有し、問題設定やアプローチ方法について検討しあえるような場を作っていく。それを通じて、対象をより多面的に把握・理解する力を養う。	西暦偶数年度開講。01DE525と同一。

0ABAJB3	文化現象学IB	2	1.0	1・2					この授業では主にヨーロッパや日本の展覧会、博覧会、音楽堂などを対象としたテキストを講読しつつ、そうした文化的な制度や施設を通じて、文化や芸術が各国・地域で、あるいは国際間でどのように影響を与えあい、現象し、発展していくのかを考える。受講者ごとに担当箇所を決め、訳読を行いつつ進める。 また受講者は自らの関心のある課題を独自に調査・研究し月1回程度の割合で各自の関心に沿った文献の紹介・調査研究の報告などの回を設ける。そうした議論を継続的に進めることで、受講者どうしがお互いの関心を把握し、建設的な議論を行う基礎知識を共有し、問題設定やアプローチ方法について検討しあえるような場を作っていく。またそれに基づいた論文執筆についての具体的なアドヴァイスなども行っていく。	西暦偶数年度開講。 01DE526と同一。 その他の実施形態
0ABAJB5	文化現象学IIA	2	1.0	1・2	春AB	火4		江藤 光紀	この授業では主にヨーロッパや日本の展覧会、博覧会、音楽堂などを対象としたテキストを講読しつつ、そうした文化的な制度や施設を通じて、文化や芸術が各国・地域で、あるいは国際間でどのように影響を与えあい、現象し、発展していくのかを考える。受講者ごとに担当箇所を決め、訳読を行いつつ進める。 また受講者は自らの関心のある課題を独自に調査・研究する。月1回程度の割合で各自の関心に沿った文献の紹介・調査研究の報告などの回を設ける。そうした議論を継続的に進めることで、受講者どうしがお互いの関心を把握し、建設的な議論を行う基礎知識を共有し、問題設定やアプローチ方法について検討しあえるような場を作っていく。また限られた時間内で必要な情報を要約し、的確に伝えるプレゼンテーションの力も鍛える。同時にまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦奇数年度開講。 01DE527と同一。 オンライン(同時双方向型)
0ABAJB7	文化現象学IIB	2	1.0	1・2	秋AB	火4		江藤 光紀	この授業では主にヨーロッパや日本の展覧会、博覧会、音楽堂などを対象としたテキストを講読しつつ、そうした文化的な制度や施設を通じて、文化や芸術が各国・地域で、あるいは国際間でどのように影響を与えあい、現象し、発展していくのかを考える。受講者ごとに担当箇所を決め、訳読を行いつつ進める。 また受講者は自らの関心のある課題を独自に調査・研究する。月1回程度の割合で各自の関心に沿った文献の紹介・調査研究の報告などの回を設ける。そうした議論を継続的に進めることで、受講者どうしがお互いの関心を把握し、建設的な議論を行う基礎知識を共有し、問題設定やアプローチ方法について検討しあえるような場を作っていく。そうすることによって、自らの課題を明確に意識し、より大きな論文へとステップアップさせていくためのきっかけを作っていく。特に論理的な構成力を涵養することを重視し指導する。	西暦奇数年度開講。 01DE528と同一。 オンライン(同時双方向型)
0ABAJC1	文化構造学I	2	2.0	1・2					現代文化を理解するための基礎文献を講読し、文化構造の分析に必要な基礎的な理論を習得する。本授業ではとりわけ、マルクス、フロイト、アルチュセール、フーコー、ドゥルーズ=ガタリなど、19世紀から20世紀に至る社会理論、文化理論に関する重要文献を読解し、近代の社会、文化構造を批判的に分析できる能力を養うことを目的とする。本授業は演習形式で行うこととし、発表とディスカッションを通じて、批判的思考能力と論理的思考能力を養成する。	西暦偶数年度開講。 01DE513, 01DE514と同一。
0ABAJC3	文化構造学II	2	2.0	1・2	春AB	金4,5		佐藤 吉幸	現代文化を理解するための基礎文献を講読し、文化構造の分析に必要な基礎的な理論を習得する。本授業ではとりわけ、バリバール、ランシエール、ネグリ=ハート、バトラーなど、現代の社会理論、文化理論に関する重要文献を読解し、現代の社会、文化構造を批判的に分析できる能力を養うことを目的とする。本授業は演習形式で行うこととし、発表とディスカッションを通じて、現代社会、現代文化に関する批判的思考能力を養成する。	西暦奇数年度開講。 01DE515, 01DE516と同一。 対面
0ABAJD1	文化動態学IA	2	1.0	1・2					本講義では、変幻するグローバル社会の多様な価値観に新たな文脈を提示すべく、現代文化を読み解くうえで必要な国内外の理論的文献を講読する。とくにポストメディア時代における芸術と社会の関係について考察し、批判的な思考力を養う。授業は演習形式で行う。	西暦偶数年度開講。 01DE505と同一。
0ABAJD3	文化動態学IB	2	1.0	1・2					本講義では、変幻するグローバル社会の多様な価値観に新たな文脈を提示すべく、現代文化を読み解くうえで必要な国内外の理論的文献を講読する。とくにポストメディア時代における具体的な社会的事象とその表象をめぐる文化のダイナミズムを精緻に考察する。授業は演習形式で行う。	西暦偶数年度開講。 01DE506と同一。 オンライン(同時双方向型)

0ABAJD5	文化動態学IIA	2	1.0	1・2	春AB	水3		清水 知子	本講義では、グローバル社会の多様な価値観に新たな文脈を提示すべく、現代文化を読み解くうえで必要な国内外の理論的文献を講読する。とくにメディア理論、芸術理論をふまえながら欧米の具体的な社会的事象とその表象をめぐる文化のダイナミズムをより精緻に考察する。授業は演習形式で行うが、ディスカッションを重視し、それを通して自らの思考を的確に表現できる力を養成する。	西暦奇数年度開講。01DE507と同一。オンライン(同時双方向型)
0ABAJD7	文化動態学IIB	2	1.0	1・2	秋AB	水3		清水 知子	本講義では、グローバル社会の多様な価値観に新たな文脈を提示すべく、現代文化を読み解くうえで必要な国内外の理論的文献を講読する。とくにポストメディア時代におけるメディア論や芸術論の関係について、具体的な社会的事象とその表象をめぐる文化のダイナミズムをより精緻に考察し、批判的な思考力を養う。授業は演習形式で行い、ディスカッションを通して自らの思考を的確に表現できる力を養成する。	西暦奇数年度開講。01DE508と同一。オンライン(同時双方向型)
0ABAJE1	文化差異学IA	2	1.0	1・2					アメリカ文化のダイナミズムと不可分である文化的差異(人種、ジェンダー、地域、障害等)に注目する。国家の枠組みを一旦保留して、環太平洋という文化ネットワークのなかで、パブリックな領域とプライベートな領域を横断しながら、文化と力の関係を検証する。孤児をめぐる国際養子縁組のシステム形成など、環太平洋ネットワークを移動する「こども」を読み解く。毎回、発表ならびにディスカッションをとおして発信力と批判的思考力を養う。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。01DE521と同一。
0ABAJE3	文化差異学IB	2	1.0	1・2					アメリカ文化のダイナミズムと不可分である文化的差異(人種、ジェンダー、地域、障害等)に注目する。国家の枠組みを一旦保留して、環太平洋という文化ネットワークのなかで、パブリックな領域とプライベートな領域を横断しながら、「核」と文化の関係を検証する。広島・長崎とネバダ核実験場、核家族と核シェルター、宇宙開発と地下都市計画、などの共鳴を考察する。毎回、発表ならびにディスカッションをとおして発信力と批判的思考力を養う。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。01DE522と同一。オンライン(同時双方向型)
0ABAJE5	文化差異学IIA	2	1.0	1・2	春AB	金3		竹谷 悦子	アメリカ文学のダイナミズムと不可分である文化的差異(人種、ジェンダー、地域、障害等)に注目する。とりわけ、文学と視覚・聴覚文化、文学とモノ文化、文学と食文化などの相互交渉のなかで見えてくる文化的差異と規範の構築性を考察する。ロビン・バーンスタインによるScriptive Thingの方法論などを検証し、アメリカの人種(白人と黒人)をめぐる言説が、文化のなかで、人間とモノ(痛みを感じない人形)との関係として形成されていった歴史を論じる。毎回、発表ならびにディスカッションをとおして発信力と批判的思考力を養う。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦奇数年度開講。01DE523と同一。オンライン(同時双方向型)
0ABAJE7	文化差異学IIB	2	1.0	1・2	秋AB	金3		竹谷 悦子	アメリカ文学のダイナミズムと不可分である文化的差異(人種、ジェンダー、地域、障害等)に注目する。とりわけ、文学と視覚・聴覚文化、文学とモノ文化、文学と食文化などの相互交渉のなかで見えてくる文化的差異と規範の構築性を考察する。カイラ・ワザナ・トンプキンズのCritical Eating Studiesの方法論などを検証し、アメリカの人種(白人と黒人)をめぐる言説が、文化のなかで、人間とモノ(食べ物)との関係として形成されていった歴史を論じる。毎回、発表ならびにディスカッションをとおして発信力と批判的思考力を養う。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦奇数年度開講。01DE524と同一。オンライン(同時双方向型)
0ABAJF1	文化批評学I	2	2.0	1・2					この授業は現代文化研究を行う上で必要である現代文化を批評するための様々な視点について学ぶことを目的としている。授業では、主に思想・批評理論・文学の文献の講読を中心に、とくに現代文化の表象に関わる諸現象について様々な角度から考察する。受講者には、授業中の発表、授業の最後のレポートの提出が求められ、それらをもとに成績評価が行われる。授業のテーマに関する幅広い知識をつけること、複合的理解力、批判的思考力を高めることを目標とする。また、この授業では学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。01DE517, 01DE518と同一。

0ABAJF3	文化批評学II	2	2.0	1・2	春A	月・木 5,6		対馬 美千子	この授業は現代文化研究を行う上で必要である現代文化を批評するための様々な視点について学ぶことを目的としている。授業では、主に思想・批評理論・文学の文献の講読を中心に、とくに現代文化の言語やイメージに関わる諸現象について様々な角度から考察する。受講者には、授業中の発表、授業の最後のレポートの提出が求められ、それらをもとに成績評価が行われる。授業のテーマに関する幅広い知識をつけること、理解力、批判的思考力を高めることを目標とする。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦奇数年度開講。 01DE519, 01DE520と同一。 その他の実施形態
0ABAJG1	文化生成学IA	2	1.0	1・2					18世紀から現代に至るドイツにおいて文化の問題がどのような角度から論じられてきたかを、主要な思想家(ヘルダー、ゲーテ、ニーチェ、カッシーラー、ベンヤミン、ガダマー等)の原典や文化理論についての研究書(ブルーメンベルク、ベーム、アスマン)を精読しながら考察する。特に異文化理解の問題、多文化主義と翻訳の問題、文化と言語の相互関係の問題などを取り上げて、文化生成の動態的なあり方について考える。解釈学、言語論、翻訳論の諸議論を手がかりにして多角的に考察を進める。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 01DE501と同一。
0ABAJG3	文化生成学IB	2	1.0	1・2					啓蒙主義、古典主義、ロマン主義の時代のドイツにおいて文化形成の問題がどのような角度から論じられてきたかを、主要な思想家(ヴィンケルマン、ヘルダー、ゲーテ、シラー、シェリング等)の原典や文化理論についての研究書を精読しながら考察する。当時の社会的・思想的背景を踏まえて、特に文化と芸術、古代と近代、文化と自然といった問題について考える。解釈学、文化記憶論、感性論、芸術論の諸議論を手がかりにして、多角的に考察を進める。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 01DE502と同一。 その他の実施形態
0ABAJG5	文化生成学IIA	2	1.0	1・2	春AB	火3		濱田 真	近代ドイツを中心に、文化・自然・芸術をめぐる諸問題について、主要な思想家(ヴィンケルマン、ヘルダー、ゲーテ、シラー、シェリング等)の原典や文化理論についての研究書を精読しながら考察する。当時の文化的・思想的背景を踏まえて、特に歴史哲学、自然哲学、芸術哲学などを中心に考察を進める。解釈学、文化記憶論、感性論、芸術論の諸研究を手がかりにして、多角的に考察を行う。	西暦奇数年度開講。 01DE503と同一。 その他の実施形態
0ABAJG7	文化生成学IIB	2	1.0	1・2	秋AB	火3		濱田 真	近代から現代に至るドイツにおけるさまざまな文化論を、思想家(ヘルダー、ニーチェ、カッシーラー、ベンヤミン、ガダマー等)の原典や文化理論についての研究書(ベーム、アスマン)を精読しながら考察する。特にイメージ・図像を介した解釈の問題が文化の形成や変容にどのような位置を占めているのかという問題について、解釈学、言語論、翻訳論、形象学等の諸議論を手がかりにして多角的に考察を進める。	西暦奇数年度開講。 01DE504と同一。
0ABAJH1	感性文化学IA	2	1.0	1・2					本授業では、現代文化の諸事象を取り上げ、感性的な次元にまで遡って、意味生成の契機をどのように記述できるかを探究するための方法論を習得する。問題としては、文化はその生成の場においてどこまで感性的なものや生物学的なものに基礎付けられているのか、あるいは反対に、すでに成立した文化形成体において、感性的な要素や生物学的な要素がどのように作動しているかを考える。方法的には、メルロ=ポンティ、デリダ、レヴィナスらの現象学、ドゥルーズの思想、シモンドンやフーコーのテクノロジーに関する議論を批判的に検討することによって、二一世紀の知のありかたにふさわしい方法論を模索する。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 01DE561と同一。
0ABAJH3	感性文化学IB	2	1.0	1・2					本授業では、現代文化の諸事象を取り上げ、感性的・身体的な次元にまで遡って、そこにおける意味生成の契機をどのように記述できるかを探究するため、具体的な事例の分析方法を習得する。問題としては、文化はその生成の場においてどこまで感性的・身体的なものに基礎付けられているのか、あるいは反対に、すでに成立した文化形成体において、感性的・身体的な要素がどのように作動しているかを考える。具体的には、現象学による身体論や芸術(絵画、彫刻、映画、舞踏など)論を検討することによって、事例に則した分析方法を練り上げることを目指す。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 01DE562と同一。 その他の実施形態

0ABAJH5	感性文化学IIA	2	1.0	1・2	春AB	月6		廣瀬 浩司	本授業では、現代文化の諸事象を取り上げ、身体の原初的な次元にまで遡って、感覚の次元のシンボル機能の契機をどのように記述できるかを探究するための方法論を習得する。問題としては、感性と言語、社会、諸制度を感性的なものがどのように基礎付けているかを、身体に定位して考察する。あるいは反対に、すでに成立した文化形成体において、身体の感覚的な次元の気づきを働かせるにはどうすればよいかを考える。方法的には、メルロ=ポンティ、レヴィナスらの現象学的身体論、ドゥルーズの思想、シモンドンのイメージ論やフーコーのテクノロジーに関する議論を批判的に検討することによって、二一世紀の文化的な諸現象を分析する方法を探る。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦奇数年度開講。 01DE563と同一。 対面
0ABAJH7	感性文化学IIB	2	1.0	1・2	秋AB	月6		廣瀬 浩司	本授業では、現代文化の諸事象を取り上げ、感性的・身体的な次元にまで遡って、シンボル機能をどのように記述できるかを探究するための、具体的な事例の分析方法を習得する。問題としては、ある文化事象において感性的・身体的なものがどのように作動しているかを探究することによって、「文化」そのものの概念を実践的に刷新するような思考をどのように練り上げるかを考える。具体的には、現象学による身体論や芸術(絵画、彫刻、映画、文学作品、舞踏など)論を感性文化論的な視点から検討することによって、事例に則した分析方法を練り上げることを目指す。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦奇数年度開講。 01DE564と同一。 対面
0ABAJJ1	文化横断学IA	2	1.0	1・2					様々な国や地域の文化と学問・芸術領域を横断しながら、学際的な関係性に焦点を当てながら分析を進めていく。現代文化学サブプログラムの授業として、現代的・共時的視点が重要となるが、それぞれの文化や学問・芸術領域のダイナミックな通時的変化や、大きな影響力を持ち続ける各種伝統などにも、丁寧に注目していく。各年度の授業開始時に、担当教員がテーマや教材等を指定するが、受講生それぞれの興味や専門を柔軟に反映させられるような演習形式で展開していく。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 01DE549と同一。
0ABAJJ3	文化横断学IB	2	1.0	1・2					文化横断学IA同様、様々な国や地域の文化と学問・芸術領域を横断しながら、学際的な関係性に焦点を当てて分析を進めていく。また、現代文化学サブプログラムの授業として、現代的・共時的視点を大切にしつつ、それぞれの文化や学問・芸術領域の通時的変化や各種伝統にも丁寧に注目するという点も同じである。一方、文化横断学IAよりも、受講生それぞれの興味や専門を取り入れた視点から独自の分析を展開し、それを発表や文章を通して伝えるという点に力を入れる。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 01DE550と同一。 オンライン(オンデマンド型)
0ABAJJ5	文化横断学IIA	2	1.0	1・2	春AB	水2		馬籠 清子	複数の国・地域の文化と学問・芸術領域を横断し、学際的な関係性に焦点を当てながら分析を進める。現代文化学サブプログラムの授業として、現代的・共時的視点を重視するが、それぞれの文化や学問・芸術領域のダイナミックな通時的変化や、大きな影響力を持ち続ける各種伝統などにも、丁寧に注目していく。各年度の授業開始時に、担当教員がテーマや教材等を指定するが、受講生それぞれの興味や専門を柔軟に反映させられるような演習形式で展開していく。同時にまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も実施する。	01DE551と同一。
0ABAJJ7	文化横断学IIB	2	1.0	1・2	秋AB	水2		馬籠 清子	文化横断学IIAを発展させる形で、様々な国・地域の文化と学問・芸術領域を横断しながら、学際的な関係性に焦点を当てていく。また、現代的・共時的視点を大切にしつつ、それぞれの文化や学問・芸術領域の通時的変化や各種伝統にも丁寧に注目するという点は、文化横断学IIAと同じである。一方、文化横断学IIAよりも、受講生それぞれの興味や専門を取り入れた視点から独自の分析を展開し、それを発表や文章を通して伝えるという点に力を入れる。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦奇数年度開講。 01DE552と同一。

0ABAJK1	芸術文化学I	2	2.0	1・2					この授業では、人間の創造行為を芸術と人類学の接点を模索するイメージ人類学のアプローチから再考し、そのアプローチを用いた芸術文化研究の可能性を探る。この探究の根底にあるのは、「イメージが放つ効力とはどのように生み出され、受容され、そして伝承されていくのか」という問いである。この問いに答えるために、イメージ人類学が提唱されるに至った学問的背景を把握しつつ、関連文献を講読する。文献研究を通して、芸術研究と人類学を結ぶ多様な視点を獲得し、イメージ、モノ、身体、文化、記憶、メディア、芸術等を研究する柔軟な思考法を習得する。本授業で取り上げる「芸術」は、いわゆる「純粋芸術」の作品だけではなく、日常品や、形の残らないもの、不完全なもの含まれる。それらの「日常の美学」や「不完全なるものの美学」も追究する。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 01DE509, 01DE510と同一。
0ABAJK3	芸術文化学II	2	2.0	1・2	春AB	木3,4		山口 恵里子	イメージ人類学のアプローチを具体的な芸術文化研究に応用する。本授業では、いわゆる「純粋芸術」のみならず、美術史研究では取り上げられることのなかった装飾や人工的なモノ(宗教的な奉納物、日常品等)、ファッション、インテリア、ダンスなども考察の対象とし、そのようなものの中に潜まれるイメージの力を問題にする。文化的にも歴史的にも多様な題材を取り上げ、イメージ人類学の射程を広げる試みを行う。文化的な所産物である日常品が生み出す「日常の美学」、「完全」ではないものが持つ「不完全なものの美学」にも迫りたい。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦奇数年度開講。 01DE511, 01DE512と同一。 対面
0ABAJL1	イメージ文化学IA	2	1.0	1・2					この授業では、言語・音声・映像・身体所作などによって表現されたもののある部分や断片が、それが置かれている文脈や全体性の安定性を揺るがしたり、部分的でありながら文脈や全体性に所属していないように思われる場合、そのような部分的な表現をイメージと定義して研究を行う。このような部分的イメージには、新しい意味や表現を生み出すという創造的な側面があるが、その具体例を文学や映像などによる作品の中に求め、イメージに関する文献を参照しながら論考する。導入的授業として、様々なテクスト・作品の講読や閲覧を中心にして、個々のイメージがどのような効果を持っているのかを具体的に把握することを目標とする。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 01DE569と同一。
0ABAJL3	イメージ文化学IB	2	1.0	1・2					イメージ文化学IAで考察されたイメージの諸相について、さらに理論的側面から研究を深める。部分的イメージは、それが置かれている文脈や全体性の安定性を揺るがしたり、文脈や全体性が取り込もうとする力に反発するように作動するが、そのような特性がどのように新しい意味や表現を生み出すのかという問題を表象論的に論考する。具体的には、イコノロジー、詩的想像力研究、文学理論、現代哲学などの分野の中でイメージに関係するテキストを取りあげて研究する。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 01DE570と同一。 その他の実施形態
0ABAJL5	イメージ文化学IIA	2	1.0	1・2	春AB	火5		吉野 修	この授業では、言語・音声・映像・身体所作などによって表現されたもののある部分や断片が、それが置かれている文脈や全体性の安定性を揺るがしたり、部分的でありながら文脈や全体性に所属していないように思われる場合、そのような部分的な表現をイメージと定義して研究を行う。このような部分的イメージには、新しい意味や表現を生み出すという創造的な側面があるが、その具体例を文学や映像などによる作品の中に求め、イメージに関する文献を参照しながら論考する。導入的授業として、様々なテクスト・作品の講読や閲覧を中心にして、個々のイメージの部分性がどのような効果を全体性に及ぼすことになるのかを具体的に把握することを目標とする。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦奇数年度開講。 01DE571と同一。 その他の実施形態

0ABAJL7	イメージ文化学IIB	2	1.0	1・2	秋AB	火5		吉野 修	イメージ文化学IIAで考察されたイメージの諸相について、さらに理論的側面から研究を深める。部分的イメージは、それが置かれている文脈や全体性の安定性を揺るがしたり、文脈や全体性が取り込もうとする力に反発するように作動するが、そのような特性がどのように新しい意味や表現を生み出すのかという問題を表象論的に論考する。具体的には、ベケット(反表象的表現)、ジョルジュ・デュテュイ(イコノロジー)、ガストン・バシュラール(詩的想像力研究)、ドゥルーズやレヴィナス(現代哲学)など、部分的イメージに関係するテキストを取りあげて研究する。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦奇数年度開講。 01DE572と同一。 その他の実施形態